



できることから始めようCO₂削減

◆温暖化は、「2℃未満」に

「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」（解説参照）は、昨年11月2日、地球温暖化をめぐる最新の研究成果をまとめた第5次報告書を公表しました。報告書では、18～19世紀に起こった産業革命後の気温上昇を「2℃未満」に抑える国際目標の達成には、二酸化炭素（CO₂）の総排出量を約2兆9千億トンにとどめる必要があると分析しました。しかし、すでに世界で排出されたCO₂は約1兆9千億トンで、余剰は約1兆トンであり、2011年の世界の排出量約350億トンのペースが続けば、今後30年足らずで許容量の上限に達してしまいます。「2℃未満」の目標達成には、発電部門で再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、将来的にはCO₂を回収・貯蓄する技術を開発・普及させることが必要になるといわれています。

【解説】気候変動に関する政府間パネル（Intergovernmental Panel on Climate Change、略称：IPCC）とは、国際的な専門家で作る、地球温暖化についての科学的な研究の収集、整理のための政府間機構です。数年おきに発行される「評価報告書」(Assessment Report)は地球温暖化に関する世界中の数千人の専門家の科学的知見を集約した報告書であり、国際政治および各国の政策に強い影響を与えています。2007年に「人為的に起こる地球温暖化の認知を高めた」として、ノーベル平和賞を受賞しました。

◆買い物で賢く選ぶコツ



温暖化を防ぐための取り組みは、日々の暮らしの中でできることがたくさんあります。物を買ったり、サービスを利用したりするときほんの少し意識するだけで、エネルギーや資源の無駄遣いを防ぐことができ、地球温暖化防止につながります。特に、家電製品や乗用車などの大きな買い物をするときは、機能面だけでなく環境面の性能も比較するようにしましょう。省エネ性能の違いによって、年間の電気使用量や燃料消費量に大きな差が出ます。

家電製品の省エネ性能を調べるときに便利なのが、「省エネラベル」です。上の図は、省エネラベルについて説明しています。上のマークは100%以上省エネ基準を達成したことを、下のマークは省エネ基準に達していないことを表しています。省エネラベリング制度は2000年8月にJIS規格の表示制度として当初は10品目の家電製品で導入され、その後対象品目が追加され、現在は計18品目に表示が義務付けられています。制度対象となっている家電製品を購入する場合には、どの製品が省エネタイプなのかを一目で見分けることができます。

野菜や肉などの食材を選ぶ際には、「地産地消」を心がけるようにするとよいでしょう。地元で生産されたものをその近くの地域で消費すれば、運搬などの物流にもなって発生するCO₂が少なくなるうえ、地域を潤すという意味でも大切なことです。また、旬の食材を選ぶことも大切です。旬ではない野菜や果物を育てるためには、ハウス栽培などの方法の他に空調設備を利用して温度調節する場合もあるため、露地栽培に比べて多くのエネルギーが使われることとなります。



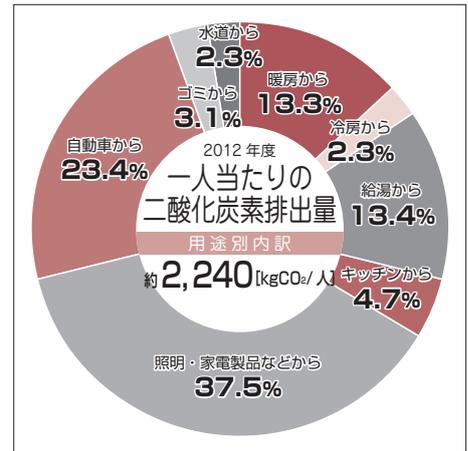
買い物をするときには…

- ①トレイ、ビニール袋、プラスチック容器など、無駄なパックの商品は避けましょう。
- ②洗剤やシャンプーなどは詰め替えができる商品を利用しましょう。
- ③買い物の際にはエコバックを持参することを習慣化しましょう。
- ④無計画な衝動買いやまとめ買いは使いきれずに捨ててしまうものになるので控えましょう。
- ⑤バラ売りのものは必要な量だけ買うことができ、包装も簡易なのでおすすめです。

◆家庭における省エネの大切さ

「2℃目標」達成には、省エネも極めて有効だと考えられています。日本のエネルギー消費を部門別にみると、民生家庭部門が高い伸びを示しており、家庭での一層の省エネ推進を図ることが必要不可欠となっています。右の図は、2012年度における国民1人当たりの家庭から排出されるCO₂量と用途別内訳を示しています。家庭からのCO₂排出量は、民生家庭部門、運輸（旅客）部門の自家用乗用車、廃棄物（一般廃棄物）処理からの排出量、および水道からの排出量を足し合わせたものです。家庭から排出されるCO₂は国民1人当たり1日約6.1kgにもなります。CO₂の1kgがどれくらいかというと、約546リットルの容積があり（気温20℃の場合）、家庭のお風呂2杯～3杯ぐらいの量になります。右図で、排出量が37.5%を占める「照明・電気製品などから」には、電気冷蔵庫、照明器具、テレビなどが含まれており、「暖房から（冷房から）」にはエアコンやストーブなどが含まれています。また「給湯から」の13.4%はおもにガス温水機器です。

CO₂排出量が増えた原因は明らかです。必要以上の物質的な豊かさを求め過ぎた、過度の物質文化への依存の結果なのです。私たちは、豊潤に“モノ”が溢れた生活を手に入れましたが、その代償として環境破壊も進みました。このことを、市民一人ひとりが深刻な問題として認知しなければなりません。



※出典
温室効果ガスインベントリオフィス全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>)より引用

「STOP! 地球温暖化」県民宣言



- 1 1人1日1kgのCO₂の削減を目指して、省エネ型生活を実践します
- 2 アイドリングストップなどのエコドライブを実践します
- 3 バスや鉄道など公共交通機関を積極的に利用します
- 4 電球型蛍光灯など省エネ型の商品を使用します
- 5 森林や身近な緑を守るなどCO₂を削減するための活動に参加します

平成20年6月20日

STOP! 地球温暖化 県民総決起大会

茨城県では、平成20年6月に「STOP! 地球温暖化」県民総決起大会が開催されました。大会では5つの項目からなる「STOP! 地球温暖化」県民宣言が採択されました。その中で、茨城県民は「1人1日1kgのCO₂の削減を目指して、省エネ型生活を実践する」ことをスローガンに掲げました。

温暖化を防止するために、私たちは自分にできることから一つひとつ取り組みを積み重ね、CO₂の排出量を減らしていくことが大切です。下の図は、家庭内のちょっとした気配りで削減できる、1日当たりのCO₂量を示しています。県民決起総会の宣言にもあるように、1人1日1kgのCO₂削減を目指して、これからもできる範囲で賢く工夫しながら、地球温暖化防止活動に参加しましょう。

リビングで

テレビを見ないときは消す	13g
1日1時間パソコンの利用を減らす	13g
主電源をこまめに切って待機電力を節約する	65g
夏の冷房設定温度を26℃から28℃に2℃高くする	83g
冬の暖房設定温度を22℃から20℃に2℃低くする	95g

お風呂／トイレで

シャワーの利用時間を1日1分短くする	74g
風呂の残り湯を洗濯に使いまわす	7g
入浴時は間隔をあけずにお風呂に入る	86g
使わないときに温水便座のふたを開けておく	15g

キッチンで

炊飯器の保温機能を使わないようにする	37g
ガスコンロの炎をなべ底からはみ出さないよう調整する	5g
冷蔵庫にものを詰め込みすぎない	18g
冷蔵庫を壁から適切な間隔で設置する	19g

◎CO₂排出量を減らすための生活の工夫◎